

令和8年3月13日

那須烏山市議会議長 中山五男 様

総務企画常任委員会委員長 興野一美

所管事務調査結果報告書

令和6年第2回6月定例会において本委員会が申し出を行った閉会中の継続調査の結果について、那須烏山市議会会議規則（平成17年10月那須烏山市議会規則第1号）第109条の規定により、次のとおり報告します。

- 1 調査期間 令和6年6月12日から令和8年3月13日まで
- 2 構成委員 興野一美、高木洋一、小堀道和、田島信二、高田悦男
- 3 調査事項
 - (1) まちづくりに関する事項
 - (2) 防災に関する事項
 - (3) 税の収納対策に関する事項
 - (4) その他所管に属する事項

4 調査結果

(1) 地域公共交通「おきタク」に係る視察

令和6年10月29日、地域公共交通の維持確保に向けた先進事例調査のため、山形県南陽市にて予約制乗り合い交通「おきタク」を視察した。現地では、既存のタクシー資源を活用した運行システムや、利用者の負担軽減と利便性の両立を図る運用実態について詳細な説明を受けた。市民の日常生活に密着した利便性の高い運行モデルは、本市の交通空白地帯における移動支援策を検討する上で非常に有益な先進事例であった。

(2) 消防団員専用アプリ「S.A.F.E」の活用についての視察

令和6年10月30日、福島県田村郡小野町にて消防団員専用アプリ「S.A.F.E」を視察した。本アプリは、発災時の出動要請から現場までのナビゲーション、水利箇所の自動表示を一元化したシステムである。従来の無線による音声情報に加え、文字と地図で正確な情報をリアルタイム共有できる点は、誤認防止と初動の迅速化に極めて有効である。地域防災の要である消防団の持続可能性を確保するためには、こ

うしたスマートフォンの利活用による「現場の省力化」が不可欠であり、本市におけるDX推進の好事例として参考となる取り組みであった。

(3) 地域おこし協力隊及びなすから特派員との意見交換会

令和6年11月9日、本市における移住定住促進及び情報発信の実態を把握するため、地域おこし協力隊及びなすから特派員とまちづくりに関する意見交換会を実施した。活動現場での課題や定住に向けた支援策について率直な意見を聴取することができた。引き続き、隊員の活動環境の整備や効果的なシティプロモーションが図られるよう、今後の施策への反映を求めたい。

(4) 岩沼AI乗り合いバスの視察

令和7年11月4日、公共交通の利便性向上に向けた先進事例調査のため、宮城県岩沼市の「岩沼AI乗り合いバス」を視察した。現地では、AIによる最適ルート算出の仕組みや、高齢者の利用定着に向けた工夫について詳細な説明を受けた。実際の運行状況を確認できたことは、本市における持続可能な交通体系を構築する上で具体的かつ実践的な参考事例となった。本市の実情に即した移動手段の確保に向けた検討材料として活用を期するものである。

(5) 福島県伊達市における移住定住促進施策の視察

令和7年11月5日、本市における人口減少対策の参考とするため、先進的な取り組みを展開する福島県伊達市を視察した。現地では、移住定住コンシェルジュによる移住希望者への伴走型支援や、お試し住宅を活用した相談体制、さらには定住後のコミュニティ形成支援について具体的な手法を確認した。実際の成功事例に触れ、定住に向けた受け入れ態勢の重要性を認識できたことは、本市の移住定住施策を再構築する上で具体的かつ実践的な参考事例となった。

(6) 常陸大宮市における駅を中心としたまちづくり事業の視察

令和8年1月23日、中心市街地活性化の先進事例調査のため、茨城県常陸大宮市を視察した。現地では駅周辺の再開発計画や公共施設の集約化について説明を受けた。実際に整備が進む常陸大宮駅周辺を歩き、駅を核とした都市機能の強化や住民の回遊性を高める空間設計を直接確認し、本市のまちづくりを検討する上で、有用な判断材料を得る機会となった。